

えひめの歴史文化モノ語り

県歴博収蔵資料から④9

今回は元祖UFOキャッチャーともいえる「クレインゲーム型自動菓子販売機」を紹介する。

今年1月のこと。ある来館者から「こんな物が昔から家にあるが、役に立つだろうか?」と問い合わせがあった。持参された写真を見て、昭和初期のクレインゲームだと直感した。実は2005年に開催した巡回展「いま・むかし おもちゃ大博覧会」で、写真と同じクレインゲームを展示した経験があった。

詳しく話を聞くと、戦前から戦後にかけて宇和島で玩具・お菓子・日用品を販売

売しており、軒先にこのクレインゲームを置いていた

よつだ。寸法は縦46・5センチ、横64・5センチ、高さ86センチ。宇和島空襲の際は、間一髪で

戦火から逃れることができたそう。当時最先端の玩具が宇和島にも普及していたこと、そして何よりも現在まで保存されていたことに驚いた。

資料の状況について尋ねると「まだ動くかもしれない」とのことだった。後日、興味津々で受け取りに赴き、恐る恐る動かしてみるとスムーズに動いた。よく見ると、その仕組みは次のようになっていることが分

かった。

1銭を入れてハンドルを回すと、クレインが左に回転。ここぞと思う場所でボタンを押し、再度ハンドルを回すと、クレインが下りて、運が良ければお菓子をつかむ。さらにハンドルを回すと、クレインは右に回転して元の位置に戻り、お菓子を離す。一連の動きがハンドルの回転運動で完結しているのだ。ちなみに「値段史年表」によると、大正9年〜昭和14年当時のキャラメル20粒が10銭だった。

UFOキャッチャーやクレインゲームの面白さは、投入額より高価な景品を得るチャンスであるが、現実には簡単ではなく、取り損ねることの方が多い。「次こそは!」と度重なるうちに投入額が増加して、目的が景品の獲得からゲームその

クレインゲーム型自動菓子販売機

昭和初期 最先端の玩具

ものへ変化していく。このクレインゲームでも、多くの人々が一喜一憂したことだろう。

(専門学芸員・平井誠)

△月2回掲載します▽

× ×

本資料は県歴史文化博物館(西予市)のテーマ展「昭和・子どもの世界」(13日〜9月1日)で初公開する。



戦前戦後、宇和島市の玩具・雑貨店に置かれていたクレインゲーム型自動菓子販売機—製作・昭和初期、県歴史文化博物館保管